



K.UNO NEWS LETTER

Vol. 17

ケイ・ウノは全国に店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。この広報通信では、毎月1回、ケイ・ウノのジュエリーやオーダーメイドに関するさまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けします。



ジュエリーが特別な宝物であること
をさまざまな形で次世代に伝えたい。

約150名の職人を有するケイ・ウノは、さまざまな形で日本のものづくりを応援しています。その一つが「次世代を担う若きクリエイターの育成支援」。

今年、指輪製作に使用する再生ワックスを「ヒコ・みづのジュエリーカレッジ」
「山脇美術専門学校」2校の4月入学生に提供させていただきました。初めての取り組みとなります。

今回の取り組みの発案者であり「ヒコ・みづのジュエリーカレッジ」の卒業生でもあるケイ・ウノ製造部職人、小林真広さんにお話をうかがいました。



小林真広

長野県出身。2008年「ヒコ・みづのジュエリーカレッジ」卒業後、ケイ・ウノ入社。職人の道を歩む。現在は製造部にて、店舗併設の工房及びクラフトマンのマネジメントを行う。

ケイ・ウノ初の取り組み 再生ワックスプレゼント

— 改めて今回の取り組みについて教えてください。

小林：ケイ・ウノでは、日本のものづくりを応援するためにさまざまな形で取り組んでいるのですが、今回もその一つで「次世代を担う若きクリエイターの育成支援」の一環です。

お贈りしたのは、指輪製作に使用するワックス。ケイ・ウノで実際に使用したワックスの端材を再生して二次利用可能になったものを、「ヒコ・みづのジュエリーカレッジ」「山脇美術専門学校」の4月入学生の皆さん計135名に無償で提供させていただきました。こうしたプレゼント企画はケイ・ウノ初となります。

— プレゼントされたワックスについて、もう少し詳しく教えてください。

小林：ワックスとは、ジュエリーの原型をつくるためのロウ素材です。ジュエリー製作では、デザインにあわせてこのワックスを削り、原型をつくりまします。製作された原型は「キャスト」と呼ばれる工程で石膏に埋没させたのち、電気炉で焼成することでワックスは溶けてなくなります。できた空洞に溶けた貴金属を専用の機械で流し込むことで原型と同じデザインの貴金属になります。

多くの企業がこの「キャスト」を外注

に委託することがほとんどですが、ケイ・ウノでは自社で行える設備と専門の職人がいます。これも取組みを成功させる大きな要因でした。専門スタッフの知恵と技術を借りることで、今では社内での新人研修で再生ワックスを使っています。

— 今回の企画は小林さんが発案されたとうかがいました。

小林：はい、日本のものづくりが海外に生産拠点をシフトしたり、機械化ですべての作業を自動化することで人件費を削減（雇用減少）している世の中の流れをケイ・ウノの新人採用、育成に携わる立場として強く感じていました。日本のものづくりブランドである我々だからこそ貢献できることがしたいと考えていたとき「再生ワックスを未来の職人にプレゼントしよう!」と思いつきました。



指輪の製造工程。①～③の緑の部分でワックスを使用

指輪の製造工程で生じたワックスの端材(左)と再生したワックス(右)

鑄造に対する経験や技術で ワックスの再生を実現

— 実際に取り組んでみていかがでしたか。

小林：まずはプロジェクトに対して、「ヒコ・みづのジュエリーカレッジ」さんや「山脇美術専門学校」さんにご理解・ご協力をいただいたことに感謝しています。オリエンテーションの中でご挨拶をする機会を設けていただいたことも本当にありがたいと思っています。

一方、社内においてはワックス端材の収集、再生、梱包作業など、取組みに賛同してくれた多くのスタッフの協力があつて実現することができました。

— ワックスの再生についてはどうだったのでしょうか？

小林：最初に再生に取り組んだ時は本当に苦労しました。1度溶かしたワックスを再び固めるだけのことと思つて、自分だけであれこれ試して



再生ワックスを受け取る4月入学生たち

いたんですがうまく行かず、まわりの職人に協力してもらつてようやく実現することができました。

一般的に物量は液体から固体になる時体積が減ります。ワックスはロウ素材のため、熱を加えた後に急冷されてどんな形が細くなつていき、その過程で割れてしまつともう使えません。では再び溶かせばいいかというと、ワックスの中のオイルが抜け出してしまうため、再生の再生はまですできない。ですから再生とはいえず、一発勝負の現場なんです。

— 溶かして固めるといふ、一見シンプルな作業の中に技術が必要だったと。

小林：そうですね。溶かしたものを型に流し込む時の温度とか、型に特別な処理をすることが必要になるんですが、そこが技術力なのかなと思います。ケイ・ウノはワックス製作からすべて自社で行っているので



オリエンテーションで挨拶をする小林さん



一つひとつ小林さんが手結びしたワックス。包装紙にはケイ・ウノの職人からメッセージが

キャストの鑄造に対する経験や培われた技術があつてこそ実現できたことだと。ほかにも、ワックスが流した型にくっついてしまつてはいろいろななど、再生に関してはいろいろ問題が起きましたね。でも結局試行錯誤をしたことが今につながり、今回提供させていただいたように、ある程度の本数の再生ワックスをつくれるようになりました。

お客様の人生を支える ジュエリー製作

— 小林さんのことを少し教えていただけますか。ケイ・ウノに入社されたのは10年前でしたよね。

小林…はい。もともとのづくりには興味があつて「ヒコ・みづのジュエリーカレッジ」に出会うことができました。僕が入学した当時はシルバークセサリー全盛の時に、つくることがとにかく楽しくてたくさんつくっていました。そして10年前、ケイ・ウノに入社してプライダルなどでアクセサリーとは違った深みのあるジュエリーに触れて、二層ジュエリーが好きになつたという経緯ですね。

— 印象に残っている仕事はありますか。

小林…たくさんありますが、そのなかでも印象的だったものを一つ。僕は職人ですので、普段は工房にいます。状況に応じて時には接客に入ることもあります。ある時お迎えしたカップルのお客様、お二人とも元気がない様子で心配でした。ご来店いただくお客様の多くが輝くジュエリーに目を輝かせ、とても楽しそうにご覧になる方がほとんどなのですが、どうもそうではない感じで。

お話をうかがったら、お子様を亡くされ、遺骨を納めるジュエリーが

ほしいというご相談でした。お話はいくつかのジュエリー店はすでに捜されたそうなのですが、どれも同じようなものばかりで迷っていたところ、オーダーメイドなら自分たちだけの特別なものになるだろうと思いが、ご来店いただいたことでした。

— そういう想いからご来店されるお客様もおいでのなるんですね。

小林…職人として遺品を使った原型製作に携わったことはありましたが、お客様と直接お話しさせていただくのは初めての経験でした。

最終的にはお子様が大好きだったというおもちやと誕生石をあしらつて指輪を製作させていただきました。お客様がお帰りになる時、お供え用にとお花とお菓子をお渡ししたんです。そうしたら、それまで張り詰めていらした気持ちがゆるんだのか、奥様が泣き出されて……。思わず僕も泣いてしまったんですが、つらくせしてもらつた指輪が、お二人のこれからの支えになればいいなと改めて思いました。



お客様に想いをはせながら、心を込めてジュエリーを製作中

ジュエリー製作の次世代を さまざまな形で支援

——これからの目標や取り組みたいことについて教えてください。

小林・ケイ・ウノはオーダーメイドでサービス提供していることで、先ほどのような出会いがたくさんあります。こうした経験を重ねて感じたのはジュエリー製作は人の宝物を生み出す仕事なんだということ。世の中にあふれるように商品がある中で、ジュエリーは肌身離さずつけ続けるもの。宝飾ではあるけれどもそれだけではない、深い意味を持つ特別なものだということです。ジュエリーはなくても生きていけると思っていたんですが、知れば知るほどジュエリーのように気づかされます。ですから、これから勉強をしていくクリエイターの方々には、そうした仕事に関わるということに自信を持って、これから学んでいくことを充実させてほしいと思います。

ケイ・ウノは、ジュエリー業界全体が元気になるよう常に考えています。今回の取り組みも第2回、3回と続けていきたいですし、他にもさまざまな形で支援を続けていきたいと思っています。



「ぜひ店舗併設の工房ものぞいてみてください」と小林さん

ヒコ・みづのジュエリーカレッジの皆様からのメッセージ

この度は新入生に素敵なプレゼントをいただき、誠にありがとうございます。パッケージにまでケイ・ウノ様ならではのこだわりが詰まっており、職人の皆様からのメッセージは学生にとっても大切なものになると思います。今はまだ何に使うかわからない学生も多いですが、これから授業のなかで使用させていただこうと思います。今後どうぞよろしく願いいたします。(先生)

職人さんからのメッセージが書かれていて自分もこれから頑張ろうと思いました。(生徒)

いただいたワックスでどんな作品を作ろうか、これからの楽しみです。(生徒)

ワックスはリサイクルして使える素材であるということがわかって勉強になりました。(生徒)

ケイ・ウノさんのジュエリーを実際に見てみたいと思いました。(生徒)

オーダーして作るジュエリーはとて素敵だと思いました。(生徒)

6月の誕生石 「パール」

艶やかなパールを中心に、ダイヤモンドをぜいたくに使ったブローチ。時を超えて輝き続けるアンティークジュエリーのように、美しく咲き続ける花をイメージしました。繊細かつ有機的なラインがエレガントな女性らしさを表しています。

